

しんぶん 赤旗 2002年10月19日(土曜日) 【女性】

## 女性医師 働き続けるために

女性医師が増え、大学や学年では女子医学生が半数を占める医学部もあります。しかし、医者の世界は相変わらず「男社会」。そんななか、日本医師会の医師福祉対策委員会が「女性医師の仕事と家庭生活の両立について」をまとめ、よりよい医療をめざす開業医の団体・全国保険医団体連合会(保団連)は女性部を発足させました。女性医師たちがぶつかっている問題は―。

### **女性からは「話しやすい」**

患者の話をよく聞き、ていねいな診察をしてくれる医者なら男女は問わないという豊島文子さん(五五)は、女性の家庭医に診てもらっています。ストレスの背景にある嫁しゅうとめ、子どもの問題、夫婦間のことに話が及ぶと、女性医師は「親近感があり相談しやすい」。

婦人科の診察や乳がん検診は、女性医師の方がいいという女性もいます。初めて婦人科の診療を受けた女性(三二)は、「医師が女性でよかった。感覚的に体のことをわかってくれる気がする」と話します。

十ヶ月の子どもを持つ名古屋市の主婦(三〇)は、かかりつけの小児科医が女性。育児や保育を経験しているだけに「知識だけでない適切なアドバイスを受けられ心強い」。女性医師は「増えてほしい」。

### **気力で乗り切る**

名古屋市緑区にある眼科「はせ川こうクリニック」には次々に患者が訪れます。子ども連れ、高齢の人…。午前の診療が終わるのは午後一時を回ります。院長の長谷川公医師(三七)は、七歳、五歳、三歳と三人の子育て真っ最中。子どもの保育園の運動会には一度も出席したことがありません。「子どもは寂しいと思いますが、患者のニーズがあるし社会的責任を考えると診療を休むわけにはいきません」

長谷川さんは結婚後、岐阜県郡上郡八幡町の、内科医の夫は名古屋市の病院に勤務する別居生活。一九九五年の長男出産を機に、長谷川さんが勤務先を変えました。ゼロ歳を受け入れる保育所はなく義母と実母に世話を頼みました。一歳で預けた院内保育所も急患などのある医師に対応したものではありませんでした。二男誕生後、病院を退職、開業。三男のときは出産前日まで働き、産後八日で仕事に復帰しました。開業医の場合、別の医師に代わってもらわなければならないわけにはいかず、患者に不安を与えることは閉院につながります。「気力

で乗り切った」と話します。

一階がクリニック、二階が自宅、診療の合間をぬって育児。朝、夫が子どもを保育所に預け、迎えは人を頼む事実上の二重保育です。平日は六時で診察は終りにしていますが、急患もあり保育のバックアップ体制や、家事、育児、生活全般を気軽に相談できる女医のつながりが地域にほしいといいます。「女性だからと言う差別も、出産、育児などのハンデイもあります。でも、その体験は治療にプラスできる。女医でよかった」。いま、長谷川さんは、医療の質をさらに上げようと休診の木曜日に、大学院に通っています。

話をよく聞き、な診察してくれら男女は問わな豊島文子さん五女性の家庭医に診つています。スト背景にある嫁しゅ、子どもの問題、のことに話が及ぶ性医師は「親近感相談しやすい」。科の診察や乳がん、女性医師の方が、という女性もいま切めて婦人科の診療した女性(三)は、「医女性でよかった。感に体のことをわかれる気がする」と話す。

力月の子どもを持つ屋市の主婦(三)は、小児科医が

けでない適切なアドバイスを受けられ心強い。女性医師は「増えてほしい」。

### 気力で乗り切る

名古屋市緑区にある眼科「はせ川こうクリニック」には次々に患者が訪れます。子ども連れ、高齢の人。午前の診察が終わるのは午後一時をまわります。院長の長谷川公医師(三)は、七歳、五歳、三歳と三人の子育て真っ最中。子どもの保育園の運動会には一度も出席したことがありません。「子どもは寂しいと思いますが、患者のニーズがあるし社会的責任を考えると診療を休むわけにはいきません」



内科医の夫は名古屋市の病院に勤務する別居生活。一九九五年の長男出産を機に、長谷川さんが

た。二男誕生後、病院を退職、開業。三男のときは出産前日まで働き、産後八日で仕事に復帰しま

「女性医師が気軽に話しあえるつながりを」と話す長谷川公さん

日本医師会  
中でも  
日本医師会  
社対策委員会  
「21世紀に  
福祉事業のよ  
いて」をまと  
そのなかで、  
の仕事と家庭  
立における問  
て、①日直、  
過酷な就労生  
生活の両立の  
援②妊娠・出  
援③育児の支  
援、仕事と家  
関する基本的  
整備や、二十  
育、医師会  
口の設置など  
をうたってい

寺で診察は終